

各地区情報

▼北海道

札幌市白石区の歴史を歩く

越野 義貴(HBC)

「歩く会」は、札幌のミニ歴史探訪第19弾“えつ？レンガは江別ではなく白石だったの”と題して、8月30日に開催されました。

北海道では「煉瓦は江別が大産地」との認識ですが、煉瓦発祥の地は札幌市白石区である史実を探る事を端緒に、地区の歴史を探訪するウォーキングでした。



ストーブのモニュメント



後に土管の墓標が見える

さて、当時の様子を偲びました。三番手は、本通14丁目北に鎮座する「白石神社」。明治5年、北海道神宮の旧社殿を現地に移設した由緒ある神社で、過去には三が日の初詣の参拝客数が、道内でも北海道神宮に次ぐ2番目を記録したこともあるそうです。

断層になった崖下「御神苑・神寄谷」には「白石龍宮神社」「白石伏見稻荷社」「白石天神社」「白石辨天神社」の4社がそれぞれ祀られているほか、白石村の開墾に携わった「白石村開拓者の碑」等のモニュメントも設置されています。

まずはJR白石駅直近、平和通5丁目の「やなぎ公園」から。実はここが白石煉瓦発祥の鈴木煉瓦製造場の分工場と社長宅の跡なのです。

後に2代目社長の娘婿が、北海道の暖房の歴史の一端を担つた「福禄ストーブ」を開発したことから、この公園にはそれを顕彰して煉瓦やストーブのモニュメントが置かれています。

続いて、この工場の職人・野田荒吉氏が身内の供養のために製作した、珍しい土管製の墓標が残っています。

沿道の本郷商店街は、住宅地の開拓により前に商店街が形成されたというちょっと変わった経緯を持ち、1964年に商店街の組

されていいる「白石本通墓地」を訪れて、当時の様子を偲びました。

三番手は、本通14丁目北に鎮

合が結成されて以来、さらに地元の強い絆で結ばれてきた地域です。



できたてのスーパードライに舌鼓

ここでも華やかなりし時代を偲んだあと、直近のアサヒビール園で恒例の会食。出来たてのスーパードライと食べ放題の成吉思汗（ジンギスカン）に舌鼓を打ち、和気藹々の中で散会となりました。

ここでも華やかなりし時代を偲んだあと、直近のアサヒビール園で恒例の会食。出来たてのスーパードライと食べ放題の成吉思汗（ジンギスカン）に舌鼓を打ち、和気藹々の中で散会となりました。